

# 緑のしるべ

～冬号～

令和元年 12 月

茨城県県南農林事務所  
稲敷地域農業改良普及センター

稲敷市江戸崎甲 5 4 1

TEL 0 2 9 ( 8 9 2 ) 2 9 3 4

FAX 0 2 9 ( 8 9 2 ) 6 6 8 4



## 水郷つくば農協大根生産 部会が銘柄産地に指定

令和元年七月二十五日に、水郷つくば農協大根生産部会が銘柄産地に指定されました。

県庁で行われた指定証交付式には、部会長をはじめ、農協や市などの関係機関が出席し、副知事から指定証を受け取りました。

水郷つくば農協大根生産部会はダイコンの品質にこだわり、きめ細かい肌、輝くようなつや、生食用にふさわしい食感が売りで、「河童大根」のブランド名で販売しています。

生産面では、優良品種の選定試験を毎年行つて、出荷時期ごとに高品質な大根を出荷できるように検討しています。

出荷調整面では、共同洗浄選別施設を持ち、統一した規格、品質で市場に出荷され、実需者から高い信頼を得ています。

普及センターでは、品種選定や、反収向上技術の実証、新規栽培者の育成などにより、部会の発展のため支援してまいります。

### 令和元年産米を振り返る

#### 【生育期間中の気象】

平均気温は、六月までは平年並みからやや高かったものの、七月は平年より低く、最低気温が十七度を下回る日が三日間続きました。七月末の梅雨明け後、八月以降は平年より高温で推移しました(図)。

一日あたりの日照時間は、期間全体では平年以上となりましたが、七月上旬は平年の三割程度と少なくなりました(図)。

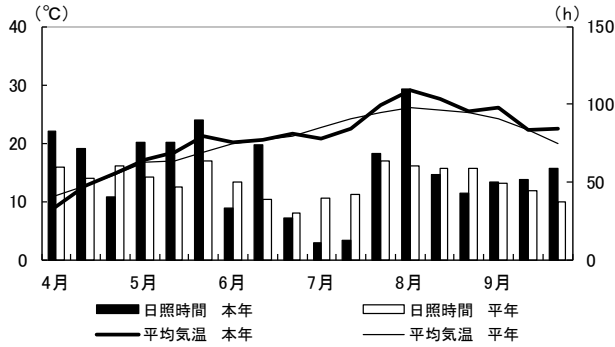


図 旬別の平均気温と日照時間の推移(平年:1981-2010)

表 令和元年産米の生育及び収量

品種	場所	移植期 (月/日)	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)
あきた こまち	稲敷市	本年 4/28	7/21	8/25	94.4	18.7
	下須田	平年 4/28	7/15	8/22	90.4	18.6
コシ ヒカリ	稲敷市	本年 5/6	7/31	9/8	90.4	19.2
	浮島	平年 5/5	7/26	9/3	91.2	19.2
	龍ヶ崎市	本年 5/19	8/7	9/15	97.5	20.7
	長峰	平年 5/16	8/2	9/12	95.5	19.2
	美浦村	本年 5/15	8/1	9/7	87.6	19.8
	舟子	平年 5/7	7/31	9/8	90.3	18.6

品種	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	一穂粒数 (粒/穂)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	収量 (kg/10a)	
あきた こまち	稲敷市 本年	431	88.9	84.8	19.5	609
	下須田 平年	414	84.9	81.7	21.5	626
コシ ヒカリ	稲敷市 本年	411	82.7	78.1	20.2	538
	浮島 平年	445	82.3	65.0	21.1	529
	龍ヶ崎市 本年	402	83.8	59.3	21.7	440
	長峰 平年	414	85.6	64.7	21.5	480
	美浦村 本年	459	82.1	77.7	20.9	461
	舟子 平年	388	84.1	70.9	21.5	495

※平年はH26~30の平均

また、八月中旬には台風十号の接近等による強風が約一週間続き、九月には台風一五号上陸による記録的な暴風雨が発生しました。

このように、本年は七月の低温と日照不足、八月上旬の高温、中旬の強風と、様々な気象要因が連続もしくは重複して水稲生育に影響を及ぼしたと考えられます。

#### 【生育と収量・品質】

七月上旬の低温と日照不足の影響で、「あきたこまち」の出穂期は平年より約五日、成熟期は三日遅くなりました。「コシヒカリ」は出穂期が約四日、成熟期が約二日遅くなりました。

一〇a当たり坪刈り収量は、「あきたこまち」「コシヒカリ」とも平年よりやや少なくなりました(表)。これは日照不足により光合成産物量が低下し、千粒重が軽くなったためと考えられました。

また、八月上旬以降の高温の影響で白未熟粒やカメムシなどによる虫害が地域全体で平年よりやや多く、玄米の等級低下が見られました。

飼料用米は全体的に不稔粒が多く発生し、低収となりました。特に「夢あおば」は耐冷性が弱いため、七月の低温により花粉の形成が阻害されて障害型冷害が発生したとみられます。

また、八月中旬に出穂した圃場は強風により受精阻害や玄米の発育停止が発生し、品種を問わず大幅な減収となったところも散見されました。

さらに九月の台風により収穫直前の籾が落ちたことによる減収も発生しました。

#### 令和二年産に向けて

##### 高温対策

高温による白未熟粒の発生を軽減するための栽培技術的な対策として、①土づくり②過剰な籾数の抑制③灌漑水による稲の温度低下があります。

①土づくり 根系の生育につながる完熟堆肥の施用(湿田〇・五t〇〇a、乾田一t〇〇a)や深耕(作土深一五cm以上の確保)の実施等、土づくりの徹底で高い効果が得られます。また、登熟後半に窒素切れになると乳白米の発生に繋がるため、穂肥の施用は収量が増えるだけでなく、特に背白・基部未熟粒が発生しにくくなります。

②過剰な籾数の抑制 籾数が多くなると乳白粒発生が増加しやすいことから早植えを避けたり、適期の中干しの実施、深水処理により過剰分げつを抑制しましょう。

③灌漑水による稲の温度低下 かけ流し▽昼間深水・夜間落水▽飽水・保水管理(湛水せずに足跡に水が残る程度の水を保つ)の順に温度を低下させる効果が高くなりますが、用水量を必要とするため、圃場条件にあった方法を選択しましょう。



審査の様子

**レンコンレシピコンテスト  
が開催されました**

稲敷市の「浮島レンコン」の魅力を最大限に引出し、レンコンの消費拡大に繋げることを目的に、つくば栄養医療調理製菓専門学校（学生による「レンコンレシピコンテスト」）が令和元年九月十三日に開催されました。

コンテストは、浮島地域レンコン生産者（JA稲敷蓮根組合）稲敷支部、桜川浮島蓮根組合、稲敷市、JA稲敷、稲敷地域農業改良普及センターで構成された浮島地域レンコンPR実行委員会により行われました。

生産者等二十四名が食べ比べで評価した結果、大賞はレンコンを握り寿司の具に仕立てた「二種のれんこん寿司盛りと真薯のお吸い物」、金賞には豚肉と野菜をふんだんに使った「酢豚」、銀



ゴッドマザーRU会によるレンコン郷土料理の説明

賞には鶏肉とハーブを組み合わせた「チキンとレンコンのグリル」、特別賞にはみじん切りのレンコンをコロケにした「レンコンのはさみコロケ」が選ばれました。

PR実行委員会では、得られたレシピの使用を市内飲食店へ提案するなど、「浮島レンコン」の消費拡大に繋げていきます。

また、学生や生産者共にレンコンの知識を深めるため、コンテストと併せて野菜ソムリエによるレンコンについての講演、ゴッドマザーRU会による郷土料理（丸煮・酢バス）の試食も行われました。



大賞「二種のれんこん寿司盛りと真薯のお吸い物」

**「いなものすけ市場」  
がオープン！**

十月六日（日）、「稲敷直売所」がリニューアルし「いなものすけ市場」としてグランドオープンしました。「新鮮で安全、生産者の顔が見えて安心できる直売所」として、レンコンやかぼちゃ等の稲敷市特産品を販売しています。

毎月第二日曜日と第三金曜日は生産者による対面販売などイベントを行いますので、是非いらしてください。



店内の様子

【いなものすけ市場】  
住所：稲敷市柴崎九一八八番地  
営業時間：九時半～一七時まで  
定休日：毎週木曜日及び元日  
～一月五日まで

### 「あみ食ラボ」 求評会を開催

「あみ食ラボ」は、阿見町の農産物を活用した加工品の製造及び販売に積極的に取り組みながら、農業経営の発展、地域活性化への貢献を図ることを目的として、阿見町内の女性農業者により設立されました。

九月三日に開催された求評会では、「カボチャプリン」や「ブルーベリーマフィン」等、阿見町産農産物を活用した加工品計十二品について食品衛生、品質等の内容をチェックし、「あみ食ラボ」の商品として適正かどうか、会員同士で加工品を評価しました。その結果、十二品の加工品は全て適正と評価されました。加工品にはグループで制作中のロゴマークのシールが貼付される予定です。今後は、オリジナルのロゴマークを活用しながら、阿見町産加工品をよりPRし、地産地消の推進を図ることです。

「あみ食ラボ」の加工品は、阿見町役場の北側入り口において、毎月第三水曜日の一二時より販売を行っています。



「あみ食ラボ」 求評会の様子

### 稲敷地域就農支援協議会について

稲敷地域就農支援協議会は、市町村や農業委員会、農協、普及センターが一体となって新規就農を支援し、担い手の育成を図っていく組織です。

就農相談を受ける際は関係機関が連携して、技術や経営、農地や販路の確保など様々な課題に対応するようにしています。

「新農業人フェア in いばらき」等、就農を目指す人が集まる相談会にも出展参加しています。

また、農業経験が豊富で高い技術を持ち、担い手育成に熱心な方に「就農支援アドバイザー」として、新規就農者に技術的アドバイスを行うなど、地域との繋がりが持てるよう交流会等に参加して頂いています。

新規に農業を始めようと考えている方は、構成員である普及センターや市町村、JA等にご相談下さいますようお願いいたします。

### 青年農業士新規認定者の紹介

#### 【青年農業士】

地域農業のリーダーとなる優れた若手農業者を知事が認定する制度です。

本橋 篤 様（美浦村 水稻経営）



本橋様は、美浦村にある「株式会社本橋農園」の後継者で、水稻生産を行っています。農地の集約、作業効率の改善等に積極的に取り組み、農業経営の効率化を目指して日々努力されています。

#### 【退任者の紹介】

諸岡 弘規 様

（稲敷市、レンコン及び水稻）

浅野 吉信 様

（河内町、レンコン及び水稻）